

気仙沼市内発掘調査報告書 1

－ 国庫補助対象事業に伴う発掘調査－

(平成 24・25 年度)

2017

気仙沼市教育委員会

刊行にあたって

気仙沼市には 181 か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が知られております。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災によって、高台への防災集団移転、災害公営住宅や個人住宅の再建等復興事業が必要となりました。それに伴い、平成 24・25 年度は、個人住宅 56 件、防災集団移転 6 件、その他 3 件の確認調査を実施しました。

本市では、東日本大震災以後急増した発掘調査を円滑かつ迅速に進めるため、宮城県教育委員会や全国の自治体からの職員の派遣などの協力をいただき、また、任期付職員を新たに採用するなど、専門職員の充実を図ってまいりました。

市内では、震災後、復興事業のほか、高台における個人住宅の建築や公共事業なども増え、埋蔵文化財と事業のかかわりが増加しています。このことは、事業者が事業地選定にあたり、被災する可能性のある低地を避け、安全な高台に土地を求めた結果であると思われます。

本書は、平成 24・25 年度に気仙沼市が国庫補助金により実施しました確認調査及び本調査の成果をまとめたものです。平成 24 年度は 11 件（10 遺跡）、25 年度は 5 件（5 遺跡）の確認調査を実施しました。その結果、6 件（6 遺跡）で遺構・遺物が発見されました。

この報告書が市民の皆様はじめ多くの方々に活用され、地域の歴史を明らかにする一助となるとともに、埋蔵文化財に対するご理解がますます深まりますようお願いしてやみません。

最後になりますが、遺跡の保存にご理解いただき、また、発掘調査に際して、ご協力をいただきました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げる次第であります。

平成 29 年 3 月

気仙沼市教育委員会
教育長 齋藤 益男

例 言

1. 本書は、気仙沼市が国庫補助金を得て、気仙沼市教育委員会が平成 24・25 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、気仙沼市教育委員会生涯学習課が主体となり、宮城県教育委員会の協力のもと実施した。
3. 整理作業は、各遺跡発掘調査終了後から平成 28 年度にかけて行った。
4. 本書の作成にあたって、遺物の観察は鈴木実夫が、遺物の実測及びトレースは森千可子が行った。また、執筆は第 1～4 章を石川 郁、5 章を鈴木が、編集を石川が行った。
5. 写真撮影は、遺構については各調査担当者が、遺物については鈴木が行った。
6. 本調査において記録した諸資料及び検出された遺物は、気仙沼市教育委員会で保管している。
7. 発掘調査から報告書の作成に至るまで、次の方々や諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝する次第である。(五十音順 敬省略)

阿部美和 小山延男 熊谷隆弘 西條勝 斎藤きよ 斎藤きよ子 佐藤信一郎
佐野紀世彦 千葉博道 畠山昭一
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ 株式会社小松工業 気仙沼・本吉地域広域行政事務組合
公益社団法人気仙沼市シルバー人材センター コマツリフト株式会社 前浜地域振興会
宮城県教育庁文化財保護課 有限会社千葉工務店

凡 例

1. 遺跡名略号 本書掲載の遺跡について、遺物の注記等に用いた略号は、以下のとおりである。
高谷遺跡：TKY 平貝遺跡：HIR 津谷館跡：TYA
田柄貝塚：TGK 圃の沢遺跡：HAT 洞館跡：HRA
2. 調査回数 平成 23 年 3 月の東日本震災以降、調査件数が急増した。そのため、平成 24 年度以降に実施した確認調査について調査回数を付すこととした。
3. 図 版 方位は、原則として図版左上に方位円によって示した。この方位は、真北を指す。縮尺は、各図版に示したが、遺物については、原則として以下のとおりである。
土器：1/3 土製品：1/2
土製平板（第 16 図）の→は、研磨箇所を示した。
4. 図及び表中で記した略号などは、以下のとおりである。
SD：溝状遺構 SK：土坑 P：小穴 Tr：トレンチ 包含層：遺物包含層
5. 本文、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真の番号は一致する。また、遺物観察表中の番号は、図番号一遺物番号で記した。
6. 遺物観察表の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修）を使用した。

目 次

刊行にあたって

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査概要	1
第1節 概要	1
1. 目的(1) / 2. 調査実績(1)	
第2節 調査体制	2
第2章 遺跡の立地	3
第3章 平成24年度の調査	7
第1節 高谷遺跡 第2次調査	7
1. 調査に至る経緯(7) / 2. 調査の概要(8) / 3. 調査の成果(8) / 4. まとめ(10)	
第2節 平貝遺跡 第1次調査	11
1. 調査に至る経緯(11) / 2. 調査の概要(12) / 3. 調査の成果(12) / 4. まとめ(15)	
第3節 津谷館跡 第1次調査	16
1. 調査に至る経緯(16) / 2. 調査の概要(17) / 3. 調査の成果(18) / 4. まとめ(20)	
第4節 田柄貝塚 第4次調査	20
1. 調査に至る経緯(20) / 2. 調査の概要(20) / 3. 調査の成果(22) / 4. まとめ(27)	
第4章 平成25年度の調査	29
第1節 圃の沢遺跡 第1次調査	29
1. 調査に至る経緯(29) / 2. 調査の概要(30) / 3. 調査の成果(30) / 4. まとめ(32)	
第2節 洞館跡 第1次調査	33
1. 調査に至る経緯(33) / 2. 調査の概要(34) / 3. 調査の成果(34) / 4. まとめ(35)	
第5章 総括	37

報告書抄録

挿図目次

第1図 調査遺跡位置図(1)〔分割図〕	3	第12図 津谷館跡第1次調査遺構配置図	19
第2図 調査遺跡位置図(2)〔北側〕	4	第13図 田柄貝塚第4次調査地点位置図	21
第3図 調査遺跡位置図(3)〔南側〕	5	第14図 田柄貝塚第4次調査トレンチ設定図	21
第4図 高谷遺跡第2次調査地点位置図	7	第15図 田柄貝塚第4次調査出土遺物(1)	24
第5図 高谷遺跡第2次調査トレンチ設定図	8	第16図 田柄貝塚第4次調査出土遺物(2)	25
第6図 高谷遺跡第2次調査出土遺物	10	第17図 田柄貝塚調査地点	27
第7図 平貝遺跡第1次調査地点位置図	11	第18図 圃の沢遺跡第1次調査地点位置図	29
第8図 平貝遺跡第1次調査遺構配置図	12	第19図 圃の沢遺跡第1次調査トレンチ設定図	30
第9図 平貝遺跡第1次調査出土遺物	15	第20図 圃の沢遺跡第1次調査出土遺物	32
第10図 平貝遺跡調査地点	16	第21図 洞館跡第1次調査地点位置図	33
第11図 津谷館跡第1次調査地点位置図	17	第22図 洞館跡第1次調査トレンチ設定図	34

表目次

第1表 平成24年度国庫補助対象事業 発掘調査一覧	1	第4表 高谷遺跡第2次調査出土遺物観察表	10
第2表 平成25年度国庫補助対象事業 発掘調査一覧	1	第5表 平貝遺跡第1次調査遺構一覧表	13
第3表 平成24・25年度確認調査実施遺跡一覧	6	第6表 平貝遺跡第1次調査出土遺物観察表	15
		第7表 田柄貝塚第4次調査出土遺物観察表	25
		第8表 圃の沢遺跡第1次調査出土遺物観察表	32

写真目次

写真1 〔高谷遺跡〕1トレンチ全景(北から)	9	写真13 〔平貝遺跡〕P04断面(南西から)	14
写真2 〔高谷遺跡〕2トレンチ全景(北から)	9	写真14 〔平貝遺跡〕P11断面(南東から)	14
写真3 〔高谷遺跡〕2トレンチ北端断面(東から)	9	写真15 〔平貝遺跡〕P25断面(西から)	14
写真4 〔高谷遺跡〕3トレンチ全景(北から)	9	写真16 平貝遺跡第1次調査出土遺物	14
写真5 〔高谷遺跡〕2・3トレンチ全景(南から)	9	写真17 〔津谷館跡〕遺構検出状況(北から)	18
写真6 〔高谷遺跡〕4トレンチ全景(北から)	9	写真18 〔津谷館跡〕SK1断面(南から)	18
写真7 〔高谷遺跡〕5トレンチ全景(北から)	9	写真19 〔田柄貝塚〕1トレンチ全景(南から)	22
写真8 〔高谷遺跡〕6トレンチ全景(北から)	9	写真20 〔田柄貝塚〕2トレンチ全景(南から)	22
写真9 〔高谷遺跡〕7トレンチ全景(北から)	10	写真21 〔田柄貝塚〕3トレンチ全景(南から)	23
写真10 〔高谷遺跡〕8トレンチ全景(北から)	10	写真22 〔田柄貝塚〕4トレンチ全景(南から)	23
写真11 高谷遺跡第2次調査出土遺物	10	写真23 〔田柄貝塚〕5トレンチ全景(南から)	23
写真12 〔平貝遺跡〕遺構検出状況(東から)	14	写真24 〔田柄貝塚〕6トレンチ全景(北から)	23

写真 25	〔田柄貝塚〕 7 トレンチ全景 (南から) —— 23	写真 34	〔圃の沢遺跡〕 3 トレンチ全景 (南から) —— 31
写真 26	〔田柄貝塚〕 8 トレンチ全景 (南から) —— 23	写真 35	〔圃の沢遺跡〕 3 トレンチ拡張 (西から) —— 31
写真 27	〔田柄貝塚〕 8 トレンチ遺物包含層 検出状況 (南から) —— 23	写真 36	〔圃の沢遺跡〕 4 トレンチ SD1 検出状況 (南から) —— 31
写真 28	〔田柄貝塚〕 9 トレンチ全景 (南から) —— 23	写真 37	〔圃の沢遺跡〕 5 トレンチ全景 (東から) —— 31
写真 29	田柄貝塚第 4 次調査出土遺物 —— 26	写真 38	圃の沢遺跡第 1 次調査出土遺物 —— 32
写真 30	〔圃の沢遺跡〕 1 トレンチ全景 (南から) —— 31	写真 39	〔洞館跡〕 3 トレンチ SK1 検出状況 (南から) —— 34
写真 31	〔圃の沢遺跡〕 2 トレンチ全景 (南から) —— 31	写真 40	〔洞館跡〕 1 トレンチ全景 (南東から) —— 35
写真 32	〔圃の沢遺跡〕 2 トレンチ SD 1 断面 (西から) —— 31	写真 41	〔洞館跡〕 2 トレンチ全景 (南から) —— 35
写真 33	〔圃の沢遺跡〕 2 トレンチ SD 1 完掘 (西から) —— 31	写真 42	〔洞館跡〕 3 トレンチ全景 (南から) —— 35
		写真 43	〔洞館跡〕 4 トレンチ全景 (南から) —— 35

第1章 調査概要

第1節 概要

1. 目的

市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地内における開発事業等に伴う遺跡の確認調査や、個人の専用住宅（費用負担を求めることが困難な事業者）に係る遺跡の本調査を実施することにより、開発事業に対する埋蔵文化財保護の円滑な推進かつ適切な保護を図る。

2. 調査実績

平成24年度の調査

平成24年度は、11件10遺跡で確認調査を実施した（第1表）。その調査面積は、1,829.4㎡

第1表 平成24年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名 (調査次)	調査原因	所在地	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	高谷貝塚 (第2次)	私有道路整備	松崎高谷	190.0	60.0	7月23日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
2	高谷遺跡 (第2次)	企業店舗用地 造成	松崎高谷	1,325.0	260.0	8月2～3日 (2日)	確認調査	遺構・遺物 検出	第3章 第1節	原因者負担で 本調査実施
3	前浜貝塚 (第2次)	コヒコハウス 建設	本吉町 前浜	2,671.0	580.0	8月23～28日 (4日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
4	平貝遺跡 (第1次)	携帯電話基地 局設置	本吉町 平貝	180.4	180.4	8月6～21日 (7日)	確認調査	遺構・遺物 検出	第3章 第2節	原因者負担で 本調査実施
5	津谷館跡 (第1次)	防災無線設置	本吉町 津谷館岡	170.0	170.0	9月18～20日 (3日)	確認調査	遺構検出	第3章 第3節	原因者負担で 本調査実施
6	石兜貝塚 (第4次)	個人アパート 建築	赤岩石兜	626.0	48.0	10月25日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
7	月立台遺跡 (第1次)	個人店舗建築	台	593.4	60.0	10月29日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
8	西中才貝塚 (第2次)	個人農地整備	西中才	625.0	47.0	12月3日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
9	田所貝塚 (第4次)	個人宅地造成	茗荷沢	1,558.4	238.0	12月12～17日 (4日)	確認調査	遺構・遺物 検出	第3章 第4節	
10	石兜貝塚 (第5次)	個人アパート 建築	赤岩石兜	119.0	60.0	12月17日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
11	旭岡遺跡 (第3次)	個人住宅建築	本吉町 津谷桜子	305.9	126.0	2月6～8日 (2日)	確認調査	遺構・遺物 なし		

第2表 平成25年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名 (調査次)	調査原因	所在地	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	圃の沢遺跡 (第1次)	個人住宅建築	本吉町 圃の沢	530.0	160.0	4月8～10日 (3日)	確認調査 本調査	遺構・遺物 検出	第4章 第1節	10m対象の本 調査実施
2	内の脇2号貝塚 (第1次)	個人住宅建築	南が丘	100.0	40.0	4月15日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
3	洞前跡 (第1次)	太陽光発電シ ステム設置	本吉町 洞沢	1,933.0	70.0	2月13日 (1日)	確認調査	土坑、縄文土 器検出	第4章 第2節	
4	南殿知城跡 (第7次)	個人住宅建築	長磯島子 沢	423.0	60.0	3月12日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		
5	台の下貝塚・台の 下館跡 [*] (第2次)	携帯電話無線 基地局建設	唐桑町 台の下	12.0	4.0	3月24日 (1日)	確認調査	遺構・遺物 なし		[*] 調査時（現在は 「台の下遺跡」）

を測る。その結果、4件4遺跡（高谷遺跡、平貝遺跡、津谷館跡、田柄貝塚）で遺構・遺物が検出された。そのうち、高谷遺跡、平貝遺跡、津谷館跡は、事業者負担による本調査を実施した。なお、田柄貝塚においては、一部で遺物包含層が検出されたものの、造成計画によって検出面に影響を及ぼさない設計であることから、本調査は実施しなかった。

平成25年度の調査

平成25年度は、5件5遺跡で確認調査を実施した（第2表）。その調査面積は、334.0㎡を測る。その結果、2件2遺跡（圃の沢遺跡、洞館跡）で遺構・遺物が検出された。そのうち、圃の沢遺跡は、計画によって掘削される箇所（10㎡）についてのみ本調査を実施した。なお、圃の沢遺跡は、調査原因が個人住宅建築であるため、確認調査に継続して国庫補助対象事業として本調査を実施した。洞館跡については、遺構・遺物が少なく、また、現状地盤の掘削を行わないため、遺跡に与える影響が少ないことから、本調査は実施しなかった。

第2節 調査体制

平成24年度及び平成25年度の調査体制は、以下のとおりである。（ゴシック表示は埋蔵文化財担当者）

調査担当：気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

（1）平成24年度

教育長 白幡 勝美

教育次長 鈴木 徳之

生涯学習課長 千葉 光広

課長補佐 鈴木 實夫（再任用）

主幹兼文化振興係長 毘野 賢一

主 幹 幡野 寛治

技術主幹 武部 喜充（宮城県任期付職員 1月から）

主 査 千葉 絢子 西園 勝彦（鹿児島県派遣 1月から）

技 師 鹿島 直樹（宮城県任期付職員 1月から）

（2）平成25年度

教育長 白幡 勝美

教育次長 小松 三喜夫

生涯学習課長 千葉 光広

課長補佐 鈴木 實夫（再任用）

主幹兼文化振興係長 毘野 賢一

主 幹 幡野 寛治 原田 享二（気仙沼市任期付職員）

技術主幹 武部 喜充（宮城県任期付職員 5月まで）

主 査 千葉 絢子 西園 勝彦（鹿児島県派遣） 橋本 雄一（公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団派遣 10月から12月まで）

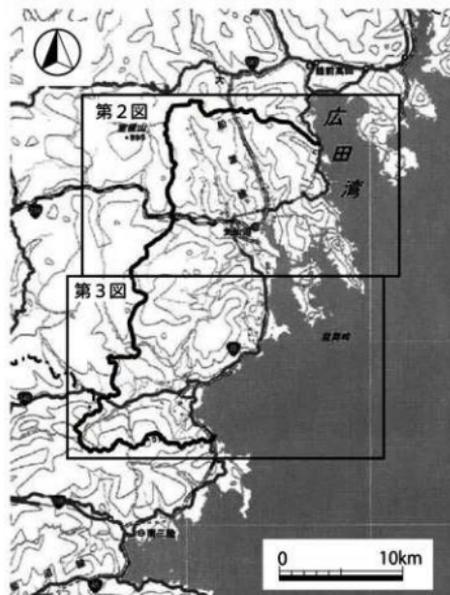
第2章 遺跡の立地

気仙沼市は、宮城県北東端の太平洋岸に位置している。市域は、北上山系の支脈に囲まれ、そこから流れる河川は西から東に向かって流れ、太平洋に注いでいる。海岸部は、三陸のリアス式海岸に位置する。三陸リアス式海岸は、入江と岬が鋸歯状に出入りする複雑に入り組んだ地形であり、青森県八戸市から宮城県石巻市の金華山まで、総延長 600km に達する。また、北部は隆起海岸のため直線的であるが、岩手県宮古市以南は沈降地形のため、湾と岬が交互に連続する海岸となっている。特に大船渡湾以南は沈降と隆起を繰り返したため、海岸線にそって平らな丘陵が並ぶ海岸段丘を形成している。気仙沼市では、この海岸段丘上に、多くの遺跡が点在している。

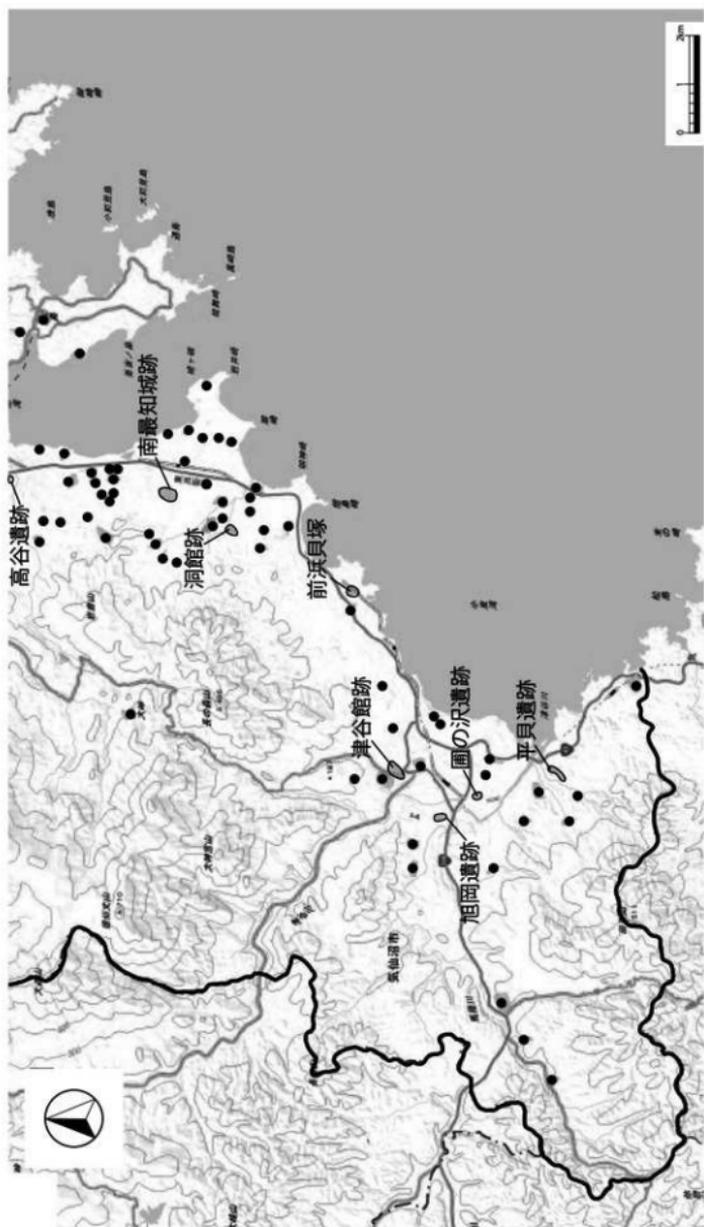
市内には、181 の遺跡が登録されている（平成 28 年 12 月現在）。本市の遺跡の特徴のひとつとして、中世の城館跡が多いことがあげられ、82 遺跡が知られている。発掘調査により城館跡の痕跡が確認された遺跡は少ないが、市内遺跡の約 45% にあたる。次いで多いのが縄文時代の遺跡で、約 40% にあたる 73 遺跡が知られている。縄文時代の遺跡のなかでも、貝塚が多いことも本市の特徴のひとつであり、19 遺跡が知られている。

平成 24・25 年度国庫補助対象事業に伴う調査実施遺跡においても、15 遺跡中 14 遺跡が中世城館跡あるいは縄文時代の遺跡であった。

第 2・3 図は、同事業において調査を実施した遺跡名を記し、第 3 表はその一覧である。なお、



第1図 調査遺跡位置図(1) [分割図]



第3図 調査遺跡位置図(3) [南側]

第3表 平成24・25年度確認調査実施遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	種別	地目	時代	これまでの出土品等
59008	月立台遺跡	台	丘陵麓	散布地	畑	縄文(晩)、古代	縄文土器(大洞C1・C2)、須恵器
59013	田柄貝塚	所沢	丘陵	貝塚	畑	縄文(早～晩)、弥生	縄文土器、土製品、石器、骨角器、弥生土器等
59017	西中才貝塚	西中才	段丘	貝塚	畑	縄文(後～晩)	縄文土器、石器、骨角器
59034	内の船之号貝塚	南が丘	丘陵	貝塚	畑、宅地	縄文(前)	縄文土器、石鏡
59043	南最知城跡	長磯中原、原ノ沢	丘陵	城跡	山林、畑	中世	
59091	石兜貝塚	赤岩石兜	段丘	貝塚	畑、宅地	古代、中世	土師器、須恵器、陶器
59094	高谷貝塚	杉崎高谷	丘陵	貝塚	畑、宅地	縄文	縄文土器、鹿角
59109	高谷遺跡	杉崎高谷	丘陵斜面	散布地	畑	縄文	縄文土器
62004	津谷館跡	本吉町津谷館岡	丘陵	城跡	畑、宅地、墓地	中世	
62010	旭岡遺跡	本吉町津谷桜子	丘陵斜面	散布地	畑	縄文	縄文土器、石器
62035	洞館跡	本吉町洞沢	丘陵	屋敷	宅地	中世	
62040	前浜貝塚	本吉町前浜	丘陵	貝塚	畑	縄文(後～晩)	縄文土器、石器、人骨、犬骨
62044	平貝遺跡	本吉町平貝	丘陵斜面	散布地・集落	畑	縄文(前・後～晩)、弥生、古代、近世	縄文土器、弥生土器、石器、陶磁器
62051	圃の沢遺跡	本吉町圃の沢	丘陵	散布地	畑	縄文	縄文土器
63002	台の下貝塚	唐桑町台の下	丘陵麓	貝塚	畑、宅地	縄文(中～晩)、弥生	縄文土器、弥生土器
	台の下館跡		丘陵	集落跡	宅地、山林、畑	縄文、弥生、平安、近世	

同事業に係わる調査を実施していない遺跡は、第2・3図において、●のみで表示した。

第3章 平成24年度の調査

第1節 高谷遺跡 第2次調査

1. 調査に至る経緯

平成24年4月12日、コマツリフト株式会社（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松崎高谷地内における「店舗及び工場新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地の南西部が周知の埋蔵文化財包蔵地である高谷遺跡（遺跡番号 59109）に該当している（第4図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添え、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、県教委から事業者に、埋蔵文化財発掘の届出及び

確認調査を実施する必要がある旨回答があった（平成24年4月20日付、文第195号）。

平成24年5月1日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同年6月13日付で県教委から通知が出された（文第760号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成24年8月2・3日に確認調査を実施することとなった。

【調査要項】

遺跡名	高谷遺跡（第2次調査） 遺跡番号：59109
調査地点	気仙沼市松崎高谷地内
調査期間	平成24年8月2日から8月3日
調査対象面積	1,325.0㎡
調査面積	260.0㎡
調査原因	店舗及び工場新築工事
調査主体	気仙沼市教育委員会
調査担当	生涯学習課文化振興係
担当職員	鈴木 貢夫、幡野寛治



第4図 高谷遺跡 第2次調査地点位置図 (S = 1/5000)

2. 調査の概要

高谷遺跡は、気仙沼市松崎高谷地内に所在し、面瀬川左岸丘陵先端部の南斜面（標高約15m）に立地する。同遺跡内においては、平成20年度に実施した確認調査で縄文時代のフラスコ状土坑群が検出されている。

今回の調査地点は、国道45号西側に位置し、高谷遺跡の北東端にあたる。調査は、平成24年8月2日に開始した。開発予定範囲の1,325.0㎡を調査対象とし、トレンチを8本（調査面積260.0㎡）設定して調査を行った。トレンチは、北部に2本（2・3トレンチ）、中央部に3本（1・4・5トレンチ）、南部に3本（6・7・8トレンチ）設定し（第5図）、地山上面あるいは遺構検出面まで掘削した。各トレンチは、遺構の有無を確認し、記録した後、同4日に埋め戻しを行った。

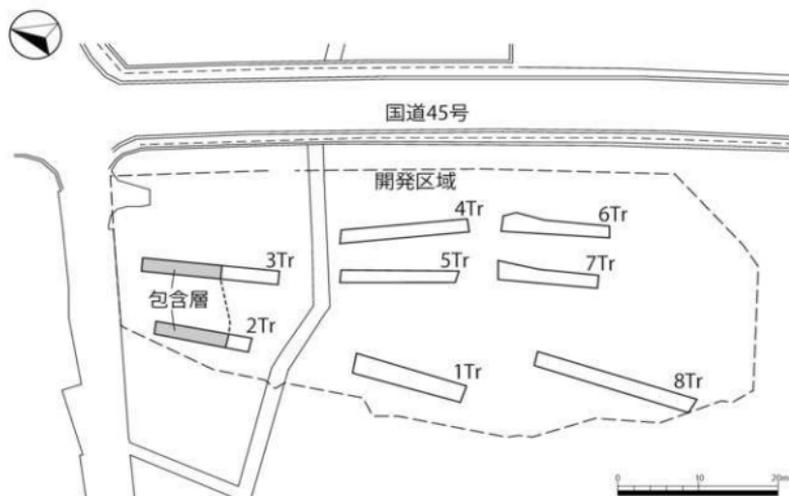
3. 調査の成果

中央部及び南部トレンチは、表土下に厚さ約60cmの盛土、その直下で地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

北部に設定した2・3トレンチは、最大約100cmの盛土、その下で厚さ約30cm堆積した旧表土、その下層で厚さ約20cmの遺物包含層を確認した。

遺物は、2トレンチで検出された遺物包含層で、前期を中心とした縄文土器片が20点検出された。いずれも小破片で、磨耗が著しいものであるが、そのうち5点を図示した。

なお、遺構は検出されなかった。



第5図 高谷遺跡第2次調査 トレンチ設定図 (S = 1/600)



写真1 1トレンチ全景 (北から)



写真2 2トレンチ全景 (北から)



写真3 2トレンチ北端断面 (東から)



写真4 3トレンチ全景 (北から)



写真5 2・3トレンチ全景 (南から)



写真6 4トレンチ全景 (北から)



写真7 5トレンチ全景 (北から)



写真8 6トレンチ全景 (北から)

4. まとめ

今回の調査地点は、高谷遺跡の北東端に位置し、平成20年度の調査で土坑群が検出された地点の東側にあたる。調査の結果、2・3トレンチで北側に向かう傾斜がみられ、その傾斜面で厚さ最大0.2mを測る遺物包含層が検出された。

遺物は、縄文土器の小破片が20点検出されたのみであるが、すべて遺物包含層（2トレンチ）で検出されたものであり、遺物包含層が当該地から北側につづく沢に遺存していることが推測できた。

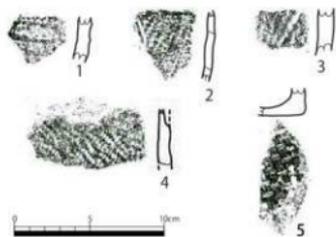
そのため、今後の取り扱いについて、事業者と市教委で協議を行った。その結果、計画変更が難しいことから、遺物包含層が検出された2・3トレンチ周辺を対象として、本調査を実施することとした。



写真9 7トレンチ全景（北から）



写真10 8トレンチ全景（北から）



第6図 高谷遺跡 第2次調査 出土遺物

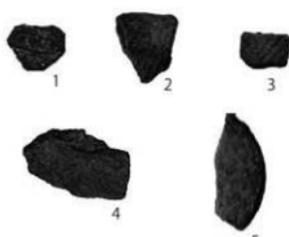


写真11 高谷遺跡 第2次調査 出土遺物

第4表 高谷遺跡 第2次調査 出土遺物観察表

図番号	検出地点	器種	部位	特徴	胎土	焼成	色調	備考
06-01	2Tr 包含層	深鉢	胴部	梯子状段帯、内面ミガキ	長石、雲母	良好	黒褐色	前期後葉
06-02	2Tr 包含層	深鉢	胴部	縄文、沈糠、内面ミガキ	長石、雲母	良好	灰黄褐色	前期
06-03	2Tr 包含層	深鉢	胴部	縄文、内面ミガキ	長石、雲母、小石	良好	にぶい黄褐色	前期
06-04	2Tr 包含層	深鉢	胴部	縄文、内面厚減	長石、雲母、小石	良好	にぶい黄褐色	前期
06-05	2Tr 包含層	深鉢	底部	底：副代皿、内外面厚減	長石、石英	良好	黄褐色	前期

第2節 平貝遺跡 第1次調査

1. 調査に至る経緯

平成24年5月31日、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、本吉町平貝地内における「1MT基地局設備工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である平貝遺跡（遺跡番号 62044）に該当している（第7図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添え、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、県教委から事業者

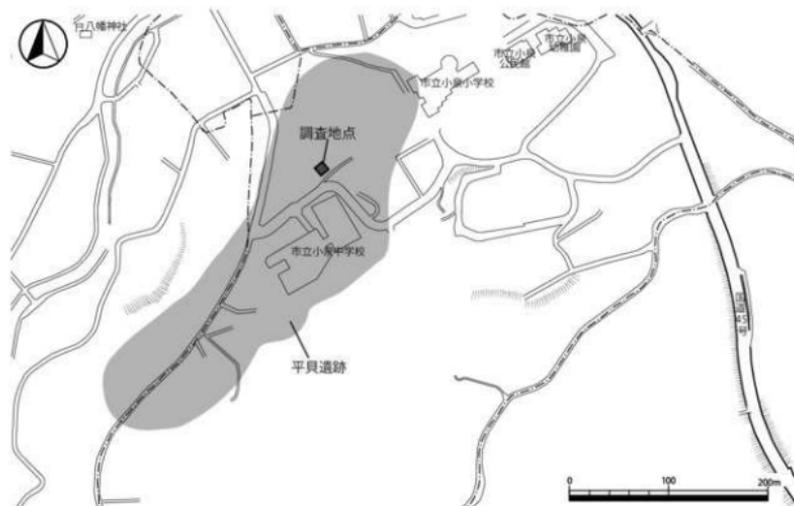
【調査要項】

遺跡名	平貝遺跡（第1次調査） 遺跡番号：62044
調査地点	気仙沼市本吉町平貝地内
調査期間	平成24年8月6日から8月21日
調査対象面積	180.4㎡
調査面積	180.4㎡
調査原因	携帯電話基地局設置工事
調査主体	気仙沼市教育委員会
調査担当	生涯学習課文化振興係
担当職員	鈴木 貢夫、幡野 寛治

者により、埋蔵文化財発掘の届出の提出及び確認調査を実施する必要がある旨回答があった（平成24年6月22日付、文第837号）。

平成24年7月6日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が市教委に提出され、同20日付で県教委から通知が出された（文第1184号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行った。対象面積が約180㎡と狭いことから、



第7図 平貝遺跡第1次調査地点位置図（S = 1/5000）

対象面積全域について調査することとし、平成24年8月6日から確認調査を実施することとした。

2. 調査の概要

平貝遺跡は、気仙沼市本吉町平貝地内に所在し、津谷川右岸のなだらかな丘陵地（標高約27m）に立地する。今回の調査地点は、昭和47年に遺物が発見された小泉小学校と平成7年の確認調査で遺構・遺物が検出された地点の間にあたる（本節「4. まとめ」参照。）。また、前項で述べたとおり、調査面積が狭いことから、トレンチ等は設定せず、計画範囲全面を掘削することとした。

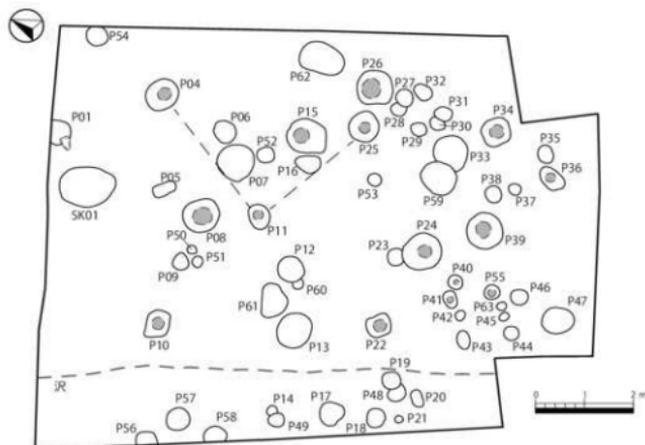
調査は、平成24年8月6日に開始した。重機により表土掘削を行った後人力による精査を行ったところ、小穴を中心とした遺構を多数確認した。遺構検出の段階で柱痕跡が確認できる小穴も認められたため、遺構は半截し、必要に応じて図化を行った。調査は、同21日に終了（実働6.5日）した。なお、時間等の制約により、確認調査に引き続き原因者負担で本調査を実施した。

3. 調査の成果

約20cm堆積した表土直下が地山であり、地山面で小穴61基及び土坑1基が検出された。

①小穴

小穴61基のうち、15基で柱痕跡が認められた。明瞭な配列は確認し得なかったが、P04 - P11 - P25 が掘立建物跡になる可能性も考えられる。この3本の柱穴を掘立柱建物跡と考えると、北東柱は調査区外となる。柱穴の間隔は、南北が3.1m、東西が2.9mを測る。各柱穴の平面形は、円形あるいは楕円形を呈し、規模は、P04及びP25が0.6～0.7mで類似しているが、P11は0.4～0.7mと、若干小さい。



第8図 平貝遺跡 第1次調査 遺構配置図 (S = 1/100)

第5表 平貝遺跡 第1次調査 遺構一覧表

遺構 番号	規模 (m)			形状 平面形	出土遺物			備考	遺構 番号	規模 (m)			形状 平面形	出土遺物			備考
	長径	短径	深さ		土器	石器	その他 (切合等)			長径	短径	深さ		土器	石器	その他 (切合等)	
SK1	1.06	0.85	0.40	不整 楕円形	23	1			P31	0.39	±0.29	0.30	楕円形				→P30
P01	0.50	(0.40)	0.21	円形	12				P32	0.38	0.32	0.25	不整 楕円形				
P02								欠番	P33	0.75	0.70	0.23	不整 楕円形	7	3		→P59
P03								欠番	P34	0.55	0.55	0.37	四角形	20	1		柱痕跡有
P04	0.70	0.60	0.20	楕円形	60	1		柱痕跡有	P35	0.38	0.32	0.22	楕円形				
P05	0.50	0.26	0.22	楕円形					P36	0.60	0.38	0.18	楕円形	1			柱痕跡有
P06	0.50	0.48	0.22	円形	2				P37	0.22	0.22	0.17	円形				
P07	0.76	0.75	0.20	円形	4	5			P38	0.36	0.30	0.19	楕円形				
P08	0.75	0.68	0.28	不整 楕円形	7			柱痕跡有	P39	0.74	0.72	0.51	円形	42		土製品1	柱痕跡有
P09	0.36	0.30	0.09	不整 楕円形					P40	0.34	0.32	0.25	円形				柱痕跡有
P10	0.60	0.46	0.21	不整 楕円形	13	1		柱痕跡有	P41	0.38	0.30	0.23	楕円形				柱痕跡有
P11	0.55	0.45	0.45	楕円形	2			柱痕跡有	P42	0.22	0.18	0.16	楕円形				
P12	0.56	0.54	0.24	円形				P60→	P43	0.40	0.26	0.12	楕円形	2			
P13	0.76	0.70	0.26	楕円形	2				P44	0.32	0.28	0.20	楕円形				
P14	0.25	0.20	0.15	楕円形				→P49	P45	0.20	0.18	0.18	楕円形				
P15	0.85	0.70	0.32	不整 楕円形	14	3		柱痕跡有	P46	0.35	0.35	0.29	円形				
P16	0.50	0.40	0.26	不整形	3				P47	0.66	0.54	0.23	不整形	3			
P17	0.54	0.50	0.12	不整形					P48	0.40	±0.35	0.13	楕円形				P19→
P18	0.40	0.38	0.23	楕円形					P49	0.33	±0.30	0.10	円形				P14→
P19	0.38	0.38	0.22	円形	1			→P48	P50	0.23	0.20	0.09	不整形				
P20	0.36	0.22	0.33	楕円形	5				P51	0.22	0.21	0.12	円形	1			
P21	0.18	0.14	0.03	楕円形					P52	0.36	0.35	0.11	円形				
P22	0.50	0.43	0.60	不整 楕円形	1	2		柱痕跡有	P53	0.28	0.28	0.16	円形				
P23	0.38	0.36	0.20	円形	1			→P24	P54	0.46	(0.36)	0.34	楕円形	2			
P24	0.81	0.76	0.36	不整形	6			柱痕跡有 P23→	P55	0.30	0.30	0.36	円形	5			柱痕跡有
P25	0.65	0.60	0.49	円形	9			柱痕跡有	P56	0.42	(0.22)	0.11	円形 or 楕円形				
P26	0.78	0.78	0.43	不整形	13	2		柱痕跡有	P57	0.48	0.48	0.31	円形	3			
P27	0.39	±0.36	0.25	不整形				P28→	P58	0.46	(0.26)	0.12	円形 (推定)				
P28	0.32	0.30	0.14	円形				→P27	P59	0.73	±0.65	0.26	楕円形	6	1		P33→
P29	0.30	0.28	0.10	円形	1				P60	0.25	0.25	0.27	円形	2			→P12
P30	0.33	0.32	0.10	円形	3			P31→	P61	0.70	0.60	0.19	不整形				
									P62	0.90	0.60	0.30	楕円形	4			
									P63	0.20	0.18	0.22	円形				

②土坑

土坑は、長径 1.06 m、短径 0.85 m を測る不整楕円形を呈し、確認面からの深さは 0.40 m を測る。覆土は 3 層に分かれ、自然堆積の様相を呈する。

③遺物

遺物は、土器 301 点 (遺構内 280 点、遺構外 21 点)、土製品 1 点、石器 12 点 (すべて遺構内) が検出された。土器は、小破片が多く、時期を明らかにし得たものは少ない。時期が判明したものは前期から後期にわたるが、後期が主体である。前期が検出された遺構は P06、中期 (初頭) が検出された遺構は P39 のみであった。P39 からは大木 7a 式に比定される深鉢口縁部及び不明土製品が検出された。そのうち、土器 14 点および土製品 1 点を図示した。石器は、磨石 8 点、敲石 2 点、剥片 2 点が検出された。16 は、P15 で検出された凝灰岩質砂岩の敲石である。



写真12 遺構検出状況(東から)



写真13 P04断面(南西から)



写真14 P11断面(南東から)



写真15 P25断面(西から)

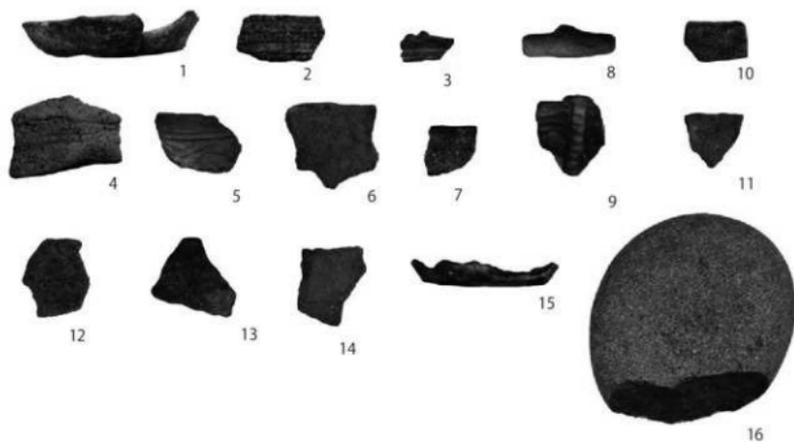


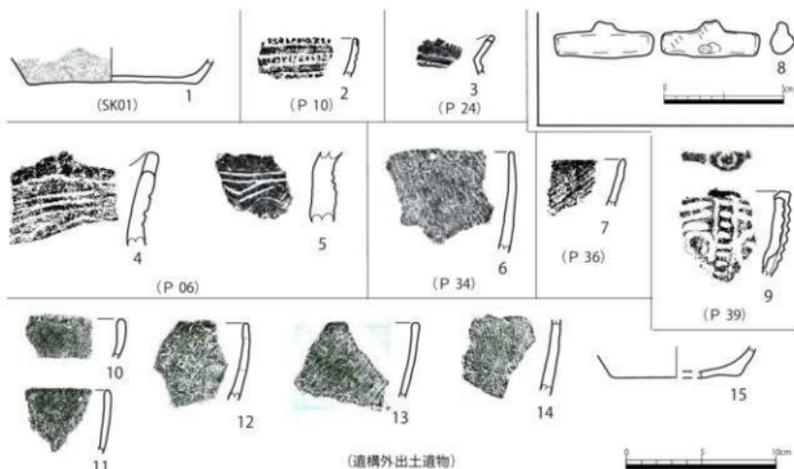
写真16 平貝遺跡 第1次調査 出土遺物

4. まとめ

今回の調査地点は、平貝遺跡の北部に位置し、周辺においては、昭和47年（小泉小学校プール建設）、平成7年（小泉中学校建設）に調査等を行い、遺構・遺物が検出されている。

昭和47年調査では、プール建設中に整理用コンテナ1箱分の遺物が発見された（「付章 本吉町立小泉小学校所蔵遺物」『宮城県本吉町平貝遺跡 平貝窯跡』（1999）本吉町教育委員会）。報告されている遺物は、晩期前葉が主体である。

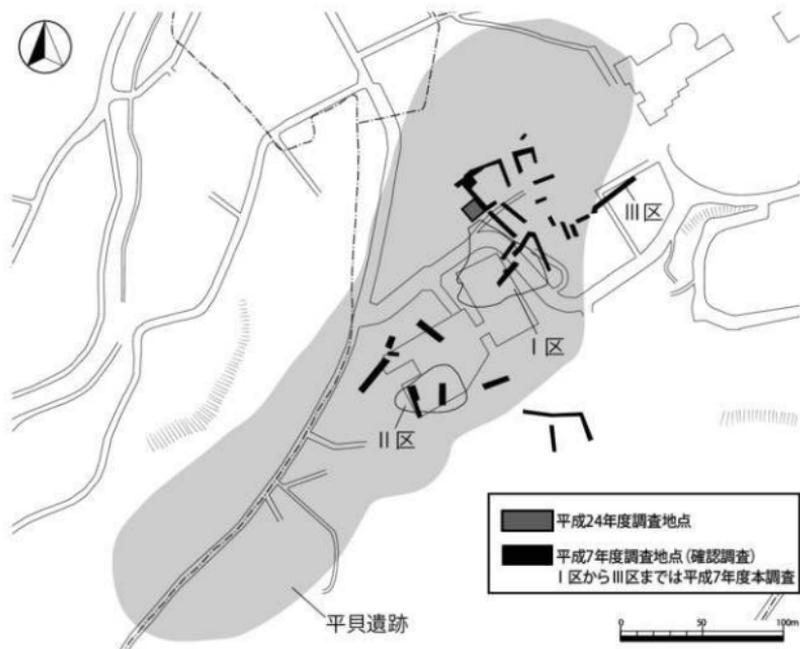
平成7年調査では、縄文時代の柱穴群、土坑、溝跡、遺物包含層、近世の掘立柱建物跡などが検



第9図 平貝遺跡 第1次調査 出土遺物

第6表 平貝遺跡 第1次調査 出土遺物観察表

図番号	検出地点	器種	部位	特徴	胎土	焼成	色調	備考
09-01	SK01	深鉢	底部	薄手、摩滅顕著	長石、石英	良好	褐色	後期
09-02	P 10	鉢	口縁部	薄手、横位沈線区画、刻み帯、内面摩滅・煤付着	長石、石英	良好	褐色	後期
09-03	P 24	壺	口縁部	薄手、口縁部半ギミ、口縁部変起、胴上部縦位半ギミ、内外面煤付着	長石、石英	良好	黒褐色	後期
09-04	P 06	深鉢	口縁部	波状口縁、折り返し口縁、横位沈線、内面摩滅	長石、石英、雲母、小石	良好	灰白色	前期（大木6）
09-05	P 06	深鉢	胴部	初変文、波状・山形・平行沈線、内面ミガキ	長石、石英、雲母、小石	良好	褐色	前期（大木6）
09-06	P 34	深鉢	胴部	縄文RL、摩滅顕著	長石、石英	良好	灰白色	後期
09-07	P 36	深鉢	口縁部	平口縁、縄文RL、摩滅顕著、内外面一部煤付着	長石、雲母	良好	淡褐色	後期
09-08	P39	土製品	—	棒状、中央部に張り出し	長石	良好	灰色、褐色	中期初頭
09-09	P39	深鉢	口縁部	口縁変起、縦位隆帯に刻み目、横位沈線と○文の組み合わせ、内面摩滅	長石、石英、雲母、小石	良好	黒褐色	中期初頭（大木7a）
09-10	遺構確認面	深鉢	口縁部	平口縁、薄手、無文、内面ミガキ	長石、雲母	良好	褐灰色	後期
09-11	遺構確認面	深鉢	口縁部	平口縁、薄手、無文、内面摩滅	長石、雲母、小石	良好	明褐色	後期
09-12	遺構確認面	深鉢	口縁部	平口縁、薄手、無文、内面ミガキ、内面煤付着	長石、石英、雲母、小石	良好	褐色	後期
09-13	遺構確認面	深鉢	胴部	薄手、無文、内面摩滅、内外面煤付着	長石、石英	良好	褐色	後期
09-14	遺構確認面	深鉢	胴部	薄手、無文、内面摩滅	長石、石英、雲母	良好	褐色	後期
09-15	遺構確認面	深鉢	底部	無文、内面摩滅、外面一部煤付着	長石、雲母	良好	黄褐色	後期



第10図 平貝遺跡 調査地点 (S = 1/3000)

出されている。報告では、遺物包含層が前期末、集落跡は概ね後期末葉～晩期前葉に比定している。

今回の調査において検出された遺構は、土坑1基を除いてすべて小穴であった。調査面積が狭く、配列等は詳細にし得なかったが、15基で柱痕跡が認められた。また、土坑1基を含め、33基から縄文土器や石器が検出されている。堆積土の状況が類似しており、遺物が検出されなかった遺構も概ね縄文時代に帰属するものであると推定できる。

遺物は、摩耗が著しい小破片の土器が多く、時期等詳細が判然としない遺物が多い。しかしながら、時期を明らかにし得た遺物は、おおそ後期に比定することができ、これまでの調査成果と概ね合致する。

第3節 津谷館跡 第1次調査

1. 調査に至る経緯

平成24年9月5日、気仙沼・本吉地域広域行政事務組合（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、本吉町津谷館岡地内における「消防救急デジタル

コンクリート基礎を築き局舎及び鉄塔を建設するものであり、面積も狭いことから、トレンチを設定せずに全面掘削して遺構及び遺物の有無を確認することとした。

調査は、平成24年9月18日に開始した。重機で表土掘削を行い、表土下20～30cmで地山が確認された。地山面を精査した結果、小穴、土坑などが多数検出された。そのため、取扱いについて事業者と市教委で協議を行った。事業者からは、事業計画の変更ができないこと、着工が10月開始予定であることの説明を受けた。市教委は、遺構の密度が高いことから、本調査が必要である旨伝えた。協議の結果、確認調査に引き続き、9月21日から10月5日で費用原因者負担により本調査を実施することとした。

3. 調査の成果

約20～30cm堆積した表土直下が地山であり、地山面で小穴153基、溝状遺構4条、土坑1基が検出された。

①小穴

小穴153基は、段下げして柱痕跡の有無を確認した。その結果、6割以上に当たる95基で柱痕跡のプランが認められた。平面による確認のみであるため、検出された小穴のすべてが柱痕跡を有しているかは明らかではない。配列については、現段階では、掘立建物跡の推定はし得なかった。

なお、小穴については、規模も様ではなく、かなり大型のものもあるが、今回の調査が確認調査であるために遺構の詳細を調査していないことから、遺構番号の振り替え等は行わず、発掘調査時の所見に基づいて報告することとした。

②溝状遺構

溝状遺構は、規模、方向等が一樣ではなく、また、ほかの遺構（小穴等）との関連も確認し得なかったことや調査区外に延びていることなどから、性格は推測できなかった。

③土坑

土坑は、径2.60～2.80mを測る不整形円形を呈し、確認面からの深さは0.25mを測る。覆土は4層に分かれる。概ね黄褐色を基調とし、炭化物の混入がみられる。土坑の時期、性格等を確認するために断ち割りを行ったが、詳細を明らかにしえなかった。しかしながら、小穴に切ら



写真17 遺構検出状況 (北から)



写真18 SK1断面 (南から)

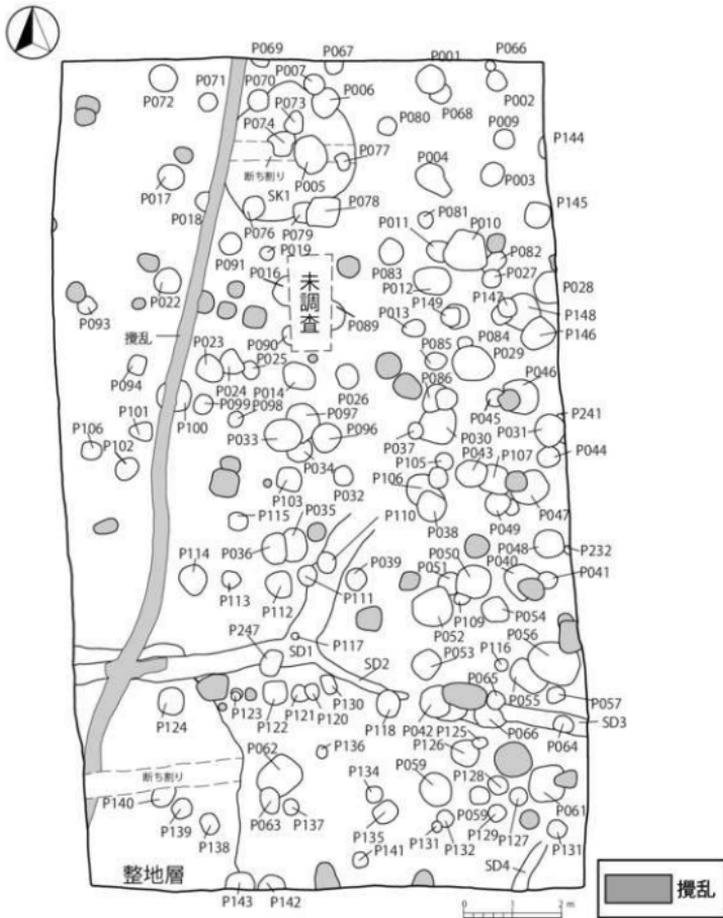
れており、本調査地点で検出された小穴群よりも古いものであると推察した。

④整地層

調査区の南西隅で南北6.40m、東西3.05m、確認面からの深さ0.22mを測る整地層が検出された。西および南側は調査区外に延びる。覆土は3層に分かれる。小穴および溝状遺構に切られる。

⑤遺物

遺物は、検出されなかった。



第12図 津谷館跡第1次調査遺構配置図 (S = 1/100)

4. まとめ

津谷館(津谷城)は、『仙台領古城書上』に、「津谷城」として、東西十二間、南北二十間と、また、『風土記』には、高さ八丈、東西五十間、南北三十五間と、規模が記されている。上記の文献によると、葛西の家臣、米倉左近将監持長の居城とされている。今回の調査地点は、津谷館跡の中央やや北側に位置し、津谷館の主郭部にあたる。これまで発掘調査を実施した箇所はないものの、周辺で曲輪、空堀、土塁などの遺構を容易に確認することができる。

今回の調査においては、調査面積 170㎡に対して、小穴・土坑あわせて 154 基が検出されており、遺構密度が非常に高いといえる。本報告は確認調査にかかるものであり、詳細については明瞭にし得なかったが、引き続き実施した本調査の成果を踏まえて再検討を行うこととしたい。

第4節 田柄貝塚 第4次調査

1. 調査に至る経緯

平成24年9月18日、個人住宅建築予定者(以下、「事業者」という。)から気仙沼市教育委員会(以下、「市教委」という。)に、茗荷沢地内における「宅地造成計画と埋蔵文化財のかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である田柄貝塚(遺跡番号 59013)に該当している(第13図)ことから、確認調査が必要である旨意見を添え、宮城県教育委員会(以下、「県教委」という。)に達達した。このことにより、県教委から事業者に、埋蔵文化財発掘の届出の提出及び確認調査を実施する必要がある旨回答があった(平成24年9月26日付、文第1864号)。

【調査要項】

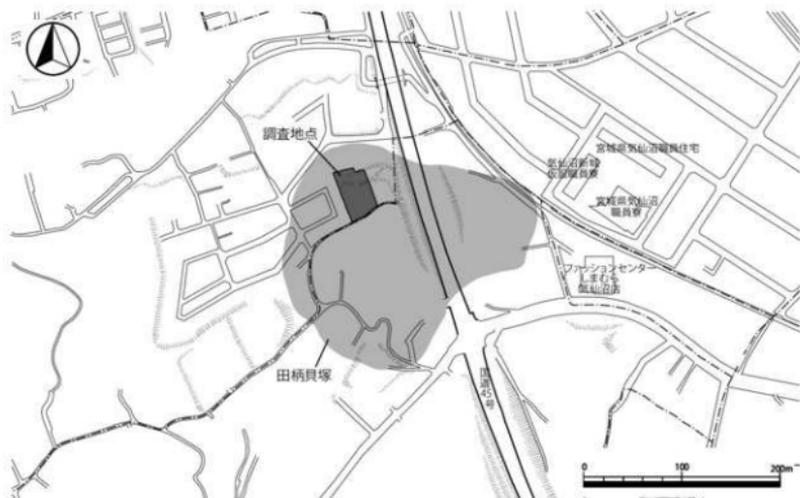
遺跡名	田柄貝塚(第4次調査) 遺跡番号: 59013
調査地点	気仙沼市茗荷沢地内
調査期間	平成24年12月12日から12月14日
調査対象面積	1,558.4㎡
調査面積	238.0㎡
調査原因	宅地造成工事
調査主体	気仙沼市教育委員会
調査担当	生涯学習課文化振興係
担当職員	鈴木 実夫

平成24年10月10日、事業者から市教委に埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同24日付で県教委から通知が出された(文第2150号)。

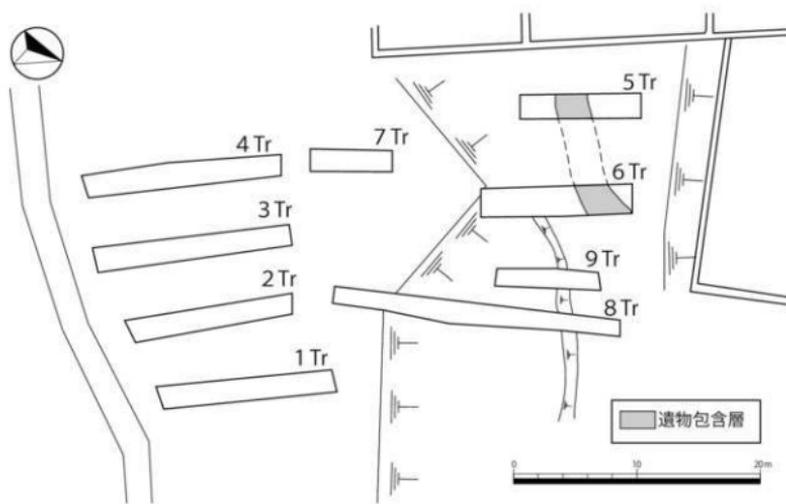
以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成24年12月12日から確認調査を開始することとなった。

2. 調査の概要

田柄貝塚は、気仙沼市所沢地内に所在し、北に茗荷沢川、南に田柄川といった、小河川に挟まれた丘陵の先端部(標高25~28m)に立地する。田柄貝塚では、昭和54年、国道45号気仙沼バイパス建設工事の事前調査として、県教委が発掘調査を実施した(宮城県教育委員会『田柄貝塚』, 1986)。調査によって、貝層をはじめ堅穴建物跡や土壌墓等の遺構が良好な状態で検出された。また、縄文時代後期後葉から晩期前葉を中心とした縄文土器や石器、骨角牙製品など約



第13図 田柄貝塚 第4次調査地点位置図 (S = 1/5000)



第14図 田柄貝塚 第4次調査 トレンチ設定図 (S = 1/600)

20,000点の遺物のほか、埋葬人骨や犬の骨なども出土している。その出土品のうち、731点が国の重要有形文化財に指定されている。

今回の調査地点は、これまで確認されていた貝層（北斜面の貝層）の北西約50mにあたる。

確認調査は、平成24年12月12日～同14日に実施した。調査対象地（1,558.4㎡）に幅1.5～2.0m、長さ6.5～23.0mのトレンチを9本（238.0㎡）設定した（第14図）。トレンチは、地形に沿って上段（対象地南側）と下段（対象地北側）それぞれの平場及び中間の傾斜地で南北方向に設定した。

各トレンチは、重機で掘削した後人力による精査を行った。その結果、下段のトレンチで遺物包含層が検出されたため、事業者と市教委で取り扱いについて協議を行った。

協議の結果、遺物包含層が検出された下段は盛土による造成を行う計画であることから、本調査は行わず、各トレンチの調査・記録を行ったのち、埋め戻しを行って調査を終了した。

3. 調査の成果

上段に設定したトレンチ（1～4・7トレンチ）は表土直下が地山であり、遺構は検出されなかった。遺物も表土からわずかに検出されたのみである。

下段に設定したトレンチ（5・6・8・9トレンチ）のうち、西側の5・6トレンチでは一部で旧表土と推察できる堆積土が確認されたが、遺物は、5トレンチの旧表土で縄文土器片1点、6トレンチの表土で縄文土器片等が21点検出されたのみであった。

東側の8・9トレンチでは、厚さ最大約80cmを測る遺物包含層が確認された。その範囲については、南北が最大8.5mを測る。西側は6トレンチと9トレンチの間で終わり、東側は調査区外に延びている。

遺物は、土器653点および石器7点が検出された。検出された土器は、9割以上にあたる596点が8トレンチおよび9トレンチの遺物包含層で検出されたものである。土器の内訳は、縄文土器が598点、弥生土器54点、近世陶器〔表土〕1点であった。縄文土器は晩期前葉から中葉、弥生土器は初頭を主体とする。そのうち、38点（縄文土器20点、弥生土器18点）を図示した。石器は、剥片4点、磨石2点、石鏃1点であった。39は、珪質凝灰岩の石鏃である。



写真19 1トレンチ全景（南から）



写真20 2トレンチ全景（南から）



写真 21 3トレンチ全景 (南から)



写真 22 4トレンチ全景 (南から)



写真 23 5トレンチ全景 (南から)



写真 24 6トレンチ全景 (北から)



写真 25 7トレンチ全景 (南から)



写真 26 8トレンチ全景 (南から)



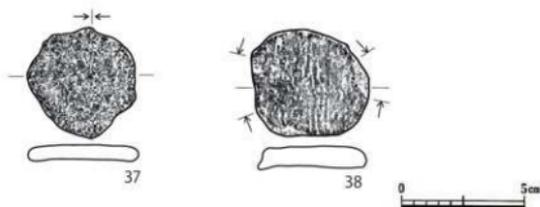
写真 27 8トレンチ遺物包含層検出状況 (南から)



写真 28 9トレンチ全景 (南から)



第15図 田柄貝塚第4次調査 出土遺物(1)



第16図 田柄貝塚 第4次調査 出土遺物(2)

第7表 田柄貝塚 第4次調査 出土遺物観察表

図番号	検出地点	器種	部位	特徴	胎土	焼成	色調	備考
15-01	8Tr 包含層	浅鉢	口縁部	薄手, 平口縁, 口縁:キザミ, 平行沈線, 羊歯状縄文, 平行沈線, 縄文(LR), 煤付着, 内面ミガキ, 一部煤付着	長石, 雲母	良好	暗褐色	大洞 BC
15-02	8Tr 包含層	浅鉢	口縁部	薄手, 平口縁, 口縁:キザミ, 平行沈線, 羊歯状縄文, 平行沈線, 内面ミガキ	長石, 雲母	良好	にぶい, 黄褐色	大洞 BC
15-03	8Tr 包含層	浅鉢	口縁部	薄手, 雲形文, 縄文(RL), 内面ミガキ	長石	良好	黄褐色	晩期
15-04	8Tr 包含層	浅鉢	口縁部	薄手, 沈線, 縄文(RL), 内面ミガキ	長石, 雲母	良好	黒褐色	晩期
15-05	8Tr 包含層	浅鉢	口縁部	C文字, 平行沈線, 縄文(RL), 煤付着, 内面ミガキ, 煤付着	長石	良好	暗褐色	晩期
15-06	9Tr 包含層	浅鉢	胴部	沈線, ○文, ミガキ, 内面摩滅	長石, 石英, 小石	良好	黒褐色	晩期
15-07	8Tr 包含層	深鉢	口縁部	羽状縄文(LRRL), 内面ナデ	長石, 雲母	良好	黄褐色	晩期
15-08	8Tr 包含層	深鉢	口縁部	羽状縄文(LRRL), 穿孔, 内面ミガキ	長石, 雲母, 小石	良好	褐色	晩期
15-09	8Tr 包含層	深鉢	胴部	器底文(LR), 一部煤付着, 内面ミガキ, 一部煤付着	長石, 石英, 小石	良好	褐色	晩期
15-10	8Tr 包含層	深鉢	胴部	器底文(LR), 内面ミガキ, 煤付着	長石, 石英	良好	明褐色, 黒褐色	晩期
15-11	8Tr 包含層	深鉢	胴部	異方向縄文(LR), 内面ミガキ	長石, 石英	良好	褐色	晩期
15-12	8Tr 包含層	深鉢	胴部	羽状縄文(LRRL), 煤付着, 内面ミガキ, 煤付着	長石, 石英, 小石	良好	暗褐色	晩期
15-13	8Tr 包含層	深鉢	胴部	羽状縄文(LRRL), 内面ミガキ	長石, 雲母	良好	黄褐色	晩期
15-14	8Tr 包含層	深鉢	胴部	扇状器底文, 内面ミガキ	長石, 雲母, 小石	良好	黄褐色	晩期
15-15	8Tr 包含層	深鉢	胴部	縄文(LR), 煤付着, 内面ミガキ, 煤付着	長石, 石英	良好	暗褐色	晩期
15-16	8Tr 包含層	深鉢	底部	底: 網代痕, 胴: 無文, 内面ミガキ	長石, 雲母	良好	にぶい, 褐色	晩期
15-17	8Tr 包含層	深鉢	底部	胴: 無文, 内面ミガキ	長石, 雲母	良好	褐色	晩期
15-18	9Tr 包含層	鉢	胴部	異方向縄文(LR), 内面ミガキ	長石, 雲母, 石英, 小石	良好	褐色	晩期
15-19	9Tr 包含層	鉢	胴部	縄文, 内面摩滅	長石, 雲母	良好	褐色	
15-20	8Tr 包含層	壺	胴部	弧状沈線, 縄文, 内面摩滅	長石, 雲母, 石英, 小石	良好	黄褐色	弥生
15-21	8Tr 包含層	壺	胴部	無文, 内面摩滅	長石, 石英	良好	褐色	弥生
15-22	8Tr 包含層	鉢	口縁部	平口縁, 平行沈線, 縄文, 縦横沈線区画, 内面ミガキ	長石	良好	黄褐色	弥生初頭
15-23	8Tr 包含層	鉢	口縁部	平口縁, 平行沈線, ボタン状突起, 内面: 横位沈線, ミガキ	長石, 石英	良好	褐色	弥生初頭
15-24	8Tr 包含層	鉢	口縁部	平口縁, 口唇キザミ, ボタン状突起, 縄文(LR), 内面: ミガキ	長石	良好	黒褐色	弥生初頭
15-25	8Tr 包含層	鉢	口縁部	無文, 内面ミガキ	小石(多), 石英	良好	黄褐色	弥生
15-26	9Tr 包含層	鉢	口縁部	平口縁, 平行沈線, 内面ナデ	小石(多), 石英	良好	黄褐色	弥生
15-27	8Tr 包含層	鉢	口縁部	平口縁, 口唇:キザミ, 平行沈線, 煤付着, 内面ミガキ	長石	良好	黒褐色	弥生初頭
15-28	8Tr 包含層	鉢	口縁部	波状口縁, 口縁に沿って山形平行沈線, 内面ミガキ	小石(多), 石英	良好	にぶい, 黄褐色	弥生
15-29	8Tr 包含層	鉢	口縁部	波状口縁, 沈線, 内面: 沈線, 横位隆帯	長石	弊鑑	暗褐色	弥生
15-30	9Tr 包含層	鉢	胴部	横位・斜位平行沈線, キザミ, 内面ミガキ	長石	良好	にぶい, 褐色	弥生
15-31	8Tr 包含層	鉢	胴部	斜位沈線, 内面ミガキ	長石	良好	褐色	弥生
15-32	8Tr 包含層	鉢	胴部	弧状沈線, 縄文(LR), 内面ナデ	石英, 雲母	良好	淡褐色	弥生
15-33	8Tr 包含層	鉢	胴部	平行沈線, 弧状沈線, 内面: 横位隆帯	長石, 石英	良好	褐色	弥生
15-34	9Tr 包含層	鉢	底部	底: 木炭痕, 内面摩滅	長石, 石英, 小石	良好	明褐色	弥生
15-35	9Tr 包含層	鉢	底部	縄文(LR), 底部ケズリ, 内面摩滅	長石, 石英, 小石	良好	褐色	弥生
15-36	9Tr 包含層	鉢	底部	高台に波状隆帯, 内面摩滅	小石(多), 雲母, 石英	良好	暗褐色	弥生
16-37	8Tr 包含層	土製円板	円形, 断面研磨, 内面摩滅	長石, 雲母	良好	明褐色	晩期	
16-38	8Tr 包含層	土製円板	楕円形, 断面研磨, 内面摩滅	長石, 雲母	良好	明褐色	晩期	

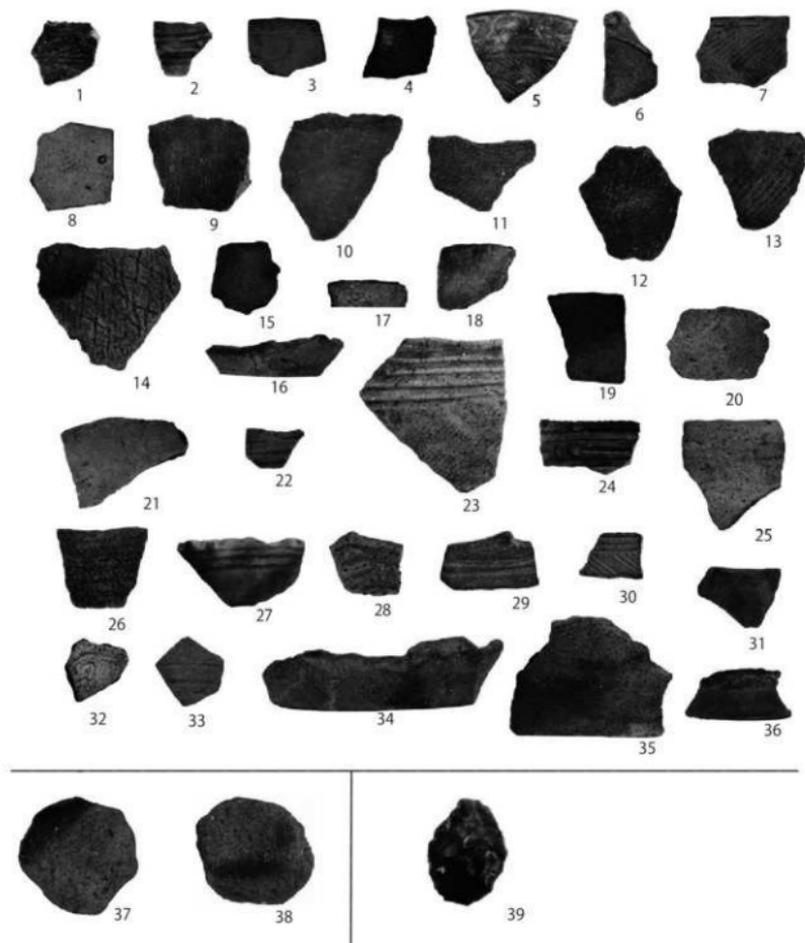


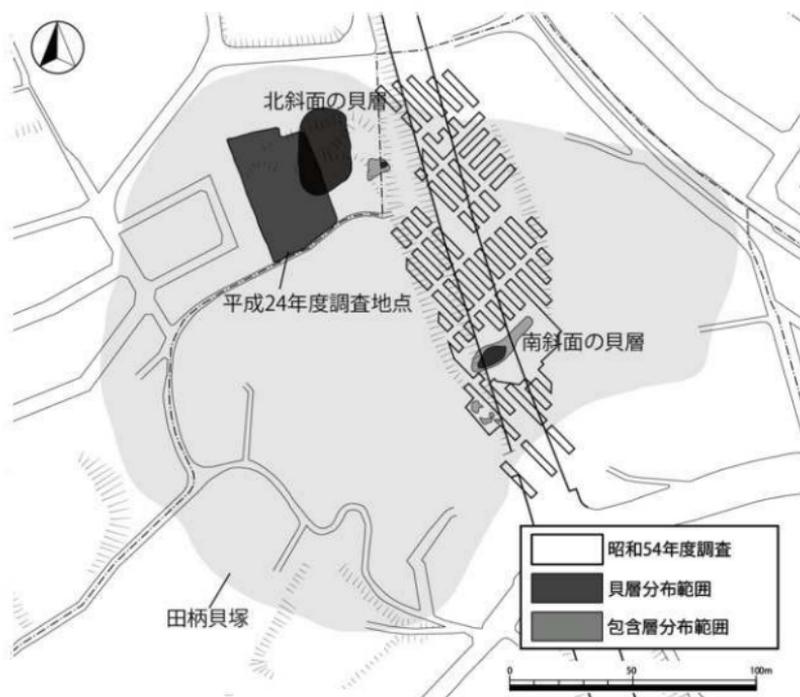
写真 29 田柄貝塚 第4次調査 出土遺物

4. まとめ

今回の調査地点は、田柄貝塚の北部にあたり、従来から知られていた北斜面の貝層確認地点と隣接する。また、昭和54年調査地点とも極めて近い位置にあたる。第17図は、田柄貝塚の包蔵地範囲に貝層および遺物包含層の範囲、昭和54年調査地点と平成24年度調査地点を示したものである。

昭和54年調査では竪穴建物跡、土坑、溝、土塚墓のほか、遺物包含層や新たな貝層が検出されている。今回の調査では、遺構や貝層は検出されなかったものの、北斜面の貝層に近い調査区東側において遺物包含層が検出された。遺物包含層は、トレンチ8および9で検出されたが、土地造成の際に盛土を施す計画であるため、拡張等は行わなかった。

遺物は、昭和54年調査においては、縄文後期中葉から晩期前葉の土器が主体で、ほかに早期末葉から前期、中期後葉から後期中葉および弥生時代初頭の土器が検出されている。今回の調査で検出された土器で時期を判断し得たものは、晩期前葉が主体で、弥生時代初頭（昭和54年調査における第Ⅹ群土器相当）が少量であった。なお、今回の調査で、石器は少量であり、骨角貝製品等は



第17図 田柄貝塚調査地点 (S = 1/2000)

検出されなかった。

今回の調査で検出された遺物包含層は、調査区東端で検出されており、昭和54年調査で検出された遺物包含層と遺物の時期も類似していることから、一連の遺物包含層であると推測できる。

第4章 平成25年度の調査

第1節 圃の沢遺跡 第1次調査

1. 調査に至る経緯

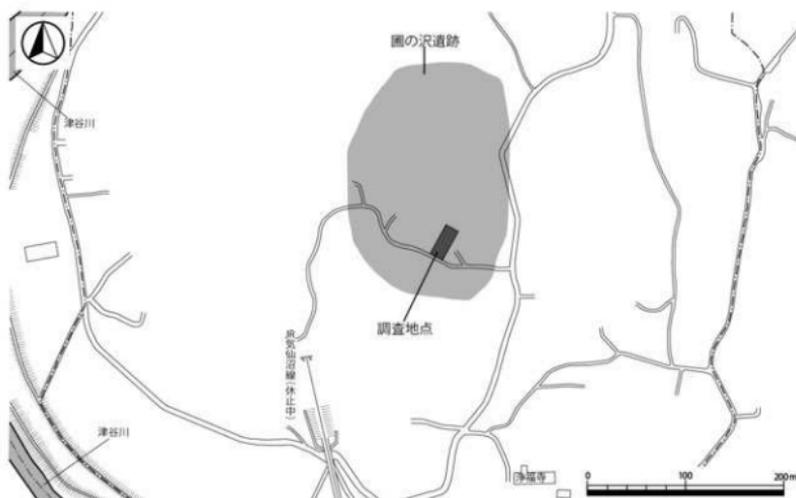
平成25年1月26日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、本吉町圃の沢地内における「個人住宅新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である圃の沢遺跡（遺跡番号62051）に該当している（第18図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添え、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、県教委から事業者に、埋蔵文化財発掘の届出の提出及び確認調査を実施

する必要がある旨回答があった（平成25年2月20日付、文第3273号）。

平成24年3月13日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同22日付で県教委から

【調査要項】

遺跡名	圃の沢遺跡（第1次調査） 遺跡番号：62051
調査地点	気仙沼市本吉町圃の沢地内
調査期間	平成25年4月8日から4月10日
調査対象面積	530.0㎡
調査面積	160.0㎡
調査原因	個人住宅建設工事
調査主体	気仙沼市教育委員会
調査担当	生涯学習課文化振興係
担当職員	鈴木 實夫、西園勝彦



第18図 圃の沢遺跡 第1次調査地点位置図（S = 1/5000）

通知が出された（文第3657号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成25年4月8日から確認調査を開始することとなった。

2. 調査の概要

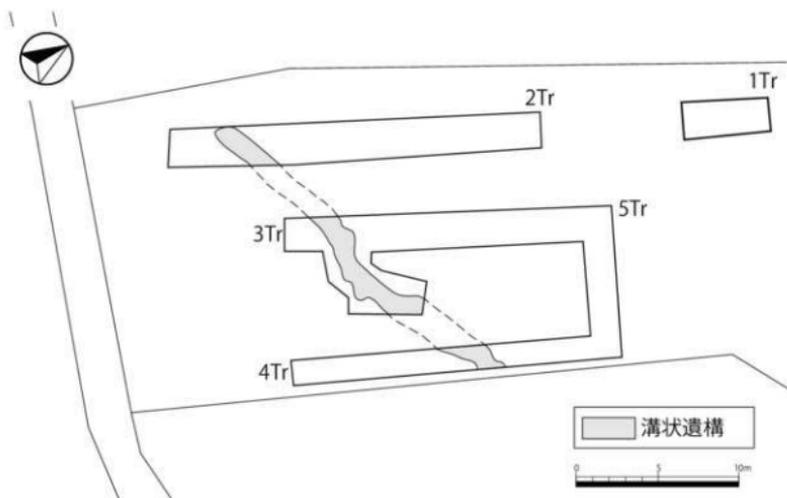
圃の沢遺跡は、気仙沼市本吉町圃の沢地内に所在し、津谷川左岸の丘陵上（標高約30m）に立地する。今回の調査地点は、圃の沢遺跡の南東端近くにあたる。

調査は、平成25年4月8日に開始した。調査対象地（530.0㎡）に幅2mのトレンチを5本設定した（150.0㎡）。各トレンチは、重機で表土掘削を行った後、人力で精査した。その結果、溝状遺構が検出されたため、同9日に設計・施工業者と市教委で協議を行った。溝状遺構が検出された箇所（3トレンチ）周辺が駐車場建設のために掘削を避けられないため、3トレンチの一部を拡張し、翌10日に本調査を実施することで合意を得た。なお、本調査のために拡張した面積は10.0㎡である。

3. 調査の成果

各トレンチは、20～30cm堆積している表土直下が地山であった。遺構は、2・3・4トレンチで溝状遺構が検出された。それぞれのトレンチで検出された溝状遺構は同一のものである。確認調査では、2トレンチ内で検出された箇所の掘削を行った。

2トレンチで溝状遺構の西側端部が検出された。主軸方向はE-16°-Nである。幅は2.0m前後、東側は調査区外に延びる。確認面からの深さは1.4mを測る。底面は平坦面を有さず、断面形はU



第19図 圃の沢遺跡第1次調査 トレンチ設定図（S = 1/300）



写真 30 1トレンチ全景 (南から)



写真 31 2トレンチ全景 (南から)



写真 32 2トレンチ SD1 断面 (西から)



写真 33 2トレンチ SD1 完掘 (西から)



写真 34 3トレンチ全景 (南から)



写真 35 3トレンチ拡張 (西から)



写真 36 4トレンチ SD1 検出状況 (南から)



写真 37 5トレンチ全景 (東から)

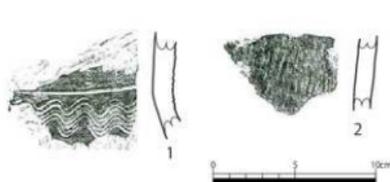
字状を呈する。

覆土は5層に分かれる。下層は地山の崩落土、上層は黒褐色を基調とし、拳大から人頭大の礫を含む。

遺物は、土器5点及び石器6点が検出された。すべて2トレンチ内の溝状遺構で検出されたものである。土器は、縄文土器1点、土師器1点、須恵器裏3点が検出された。そのうち、須恵器2点を図示した。石器は、磨石3点、敲石1点、円形で扁平な形状を呈した不明石器1点、黒曜石剥片1点であった。3は、敲石で、石質は凝灰岩質砂岩である。

4. まとめ

圃の沢遺跡は、これまで調査が行われていない遺跡で、縄文時代の散布地として知られていた。今回の調査地点は、包蔵地の南東部にあたる。調査の結果、遺構は溝状遺構が1条検出された。遺構の一部を掘削した結果、縄文土器、土師器、須恵器が検出された。遺構の性格は不明であるが、本遺構は、古代以降のものと推測することができる。しかしながら、縄文土器は細片が1点検出されたのみであったものの、石器が6点検出されており、周囲に縄文時代遺構の存在を推測することができる。



第20図 圃の沢遺跡 第1次調査 出土遺物

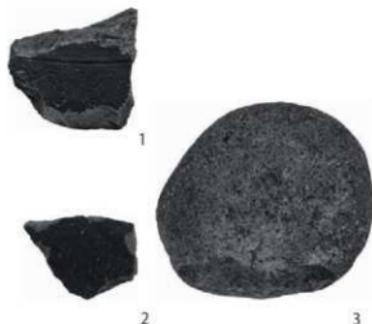


写真38 圃の沢遺跡 第1次調査 出土遺物

第8表 圃の沢遺跡 第1次調査 出土遺物観察表

図番号	検出地点	器種	部位	特徴	胎土	焼成	色調	備考
20-01	SD2 2層	須恵器 裏	頸部	頸部：横位沈線。胴部：5～6条の波状沈線。ミカキ、内面ナデ	長石、雲母	堅緻	灰色	奈良・平安時代
20-02	SD2 2層	須恵器 裏	胴部	平行タキ目	長石、雲母	堅緻	黒色	奈良・平安時代

第2節 洞館跡 第1次調査

1. 調査に至る経緯

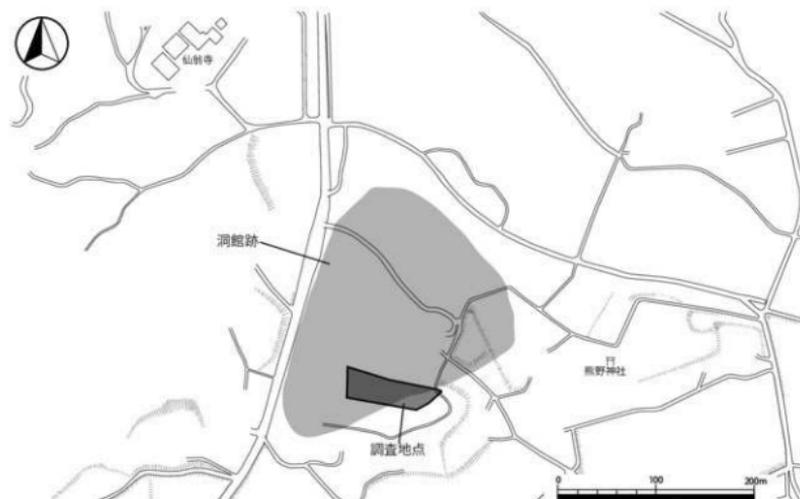
平成25年12月11日、当該土地所有者(以下、「事業者」という。)から気仙沼市教育委員会(以下、「市教委」という。)に、本吉町洞沢地内における「太陽光発電システム設置工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である洞館跡(遺跡番号62035)に該当している(第21図)ことから、確認調査が必要である旨意見を添え、宮城県教育委員会(以下、「県教委」という。)に進達した。このことにより、県教委から事業者へ、埋蔵文化財発掘の届出の提出及び確認調査を実施する必要がある旨回答があった(平成25年12月27日付、文第2533号)。

平成26年1月10日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同17日付で県教委から通知が出された(文第2635号)。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成26年2月13日に確認調査を実施することとなった。

【調査要項】

遺 跡 名	洞館跡(第1次調査) 遺跡番号:62035
調 査 地 点	気仙沼市本吉町洞沢地内
調 査 期 間	平成26年2月13日
調査対象面積	1,933.0㎡
調 査 面 積	70.0㎡
調 査 原 因	太陽光発電システム設置工事
調 査 主 体	気仙沼市教育委員会
調 査 担 当	生涯学習課文化振興係
担 当 職 員	昆野賢一、西園勝彦



第21図 洞館跡第1次調査地点位置図(S=1/5000)

2. 調査の概要

洞館跡は、気仙沼市本吉町洞沢地内に所在し、沖之田川の右岸の小台地上に立地する。今回の調査地点は、洞館跡の南東端近くにあたる。

調査は、平成26年2月13日に実施した。調査対象地（1,933.0㎡）に幅2mのトレンチを4本設定した（70.0㎡）。各トレンチは、重機で表土掘削を行った後、人力で精査した。その結果、土坑が1基検出されたものの、20～30cmほど堆積した表土の直下は粘質シルトあるいは泥岩の地山であった。

工事が掘削を伴わないものであるため、各トレンチの記録を行い、同日、埋戻しを行って調査を終了した。

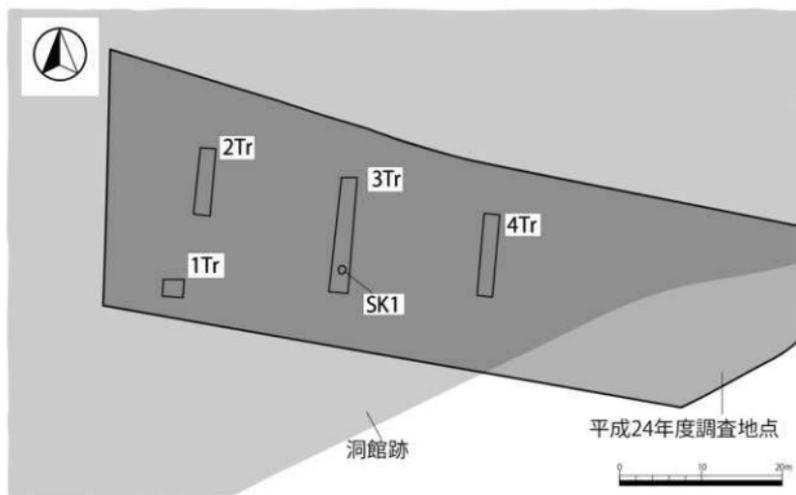
3. 調査の成果

遺構は、3トレンチで土坑が1基検出された。土坑は、長径1.10m、短径0.65mを測る楕円形を呈し、確認面からの深さは0.46mを測る。

遺物は、縄文土器片が27点検出された。磨耗が著しく、時期等を推定できるものはなく、また、小破片であるため、図示し得なかった。



写真 39 3トレンチ SK1 検出状況（南から）



第22図 洞館跡第1次調査 トレンチ設定図



写真 40 1 トレンチ全景 (南東から)



写真 41 2 トレンチ全景 (南から)



写真 42 3 トレンチ全景 (南から)



写真 43 4 トレンチ全景 (南から)

4. まとめ

『仙台領内古城・館』によると、洞館跡は、中世の屋敷跡と記されている。

今回の調査地点は、洞館跡の南端にあたる。調査で屋敷に伴う遺構や中世の遺物は検出されていない。土坑が1基検出されたが、遺物は縄文土器のみであった。

調査地内では遺物包含層は検出されなかったが、洞館跡は、縄文時代の遺跡を包含している可能性も考えられる。今後の調査成果に期待したい。

第5章 総括

本報告書は、平成24年度および25年度に調査を実施した国庫補助対象事業に伴う発掘調査の報告書である。平成24・25年度は、16件（15遺跡）の確認調査を実施している。そのうち、6件（6遺跡）で遺構・遺物が検出されたため、ここに報告した。

本書掲載遺跡のうち、高谷遺跡、平貝遺跡、津谷館跡については、原因者負担による本調査を実施したため、別に報告する。圃の沢遺跡は、個人住宅建築に伴うものであることから、事業に影響を及ぼす箇所についてのみ、確認調査から継続して本調査（実働1日）を実施した。なお、田柄貝塚については、遺物等が検出された箇所が工事による掘削を伴わないことから、本調査は実施しなかった。

今回報告した調査地点は、平貝遺跡と田柄貝塚については宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）により調査が行われた地点に隣接している。両遺跡とも、県教委調査地点と同様に遺構・遺物が検出された。平貝遺跡は、前述のとおり、原因者負担で本調査を実施しており、その成果もあわせて遺跡の位置づけを検討する必要がある。また、田柄貝塚は、県教委調査地点から続く遺物包含層が検出された。

高谷遺跡は、包蔵地の端部にあたるが、平成20年度に気仙沼市が調査を行い、土坑群などが検出された地点と隣接している。今回の調査において遺構は検出されなかったものの、遺物包含層が検出された。本調査の成果および周辺の調査結果を考慮し、包蔵地範囲も含めて再検討する必要がある。

津谷館跡、圃の沢遺跡、洞館跡は、今回が初めての調査である。津谷館跡は、周辺で曲輪、空堀、土塁などを容易に確認でき、比較的遺存状態が良好な遺跡である。今回の調査地点は、主郭部の調査であった。確認調査の結果、153基の小穴が検出され、柱痕跡を有するものも多く認められた。本調査による詳細な遺構調査および周辺でみられる遺構などを踏まえ、館跡の様相を検討する必要がある。圃の沢遺跡は、縄文時代の散布地として知られる遺跡である。今回の調査で、溝状遺構が1条検出された。遺構内で検出された遺物は、奈良・平安時代の須恵器等であったが、石器も検出されており、周辺に縄文時代の遺構等が存在する可能性も考えられる。洞館跡は、土坑が1基検出されたのみで、本調査は実施しなかった。

本調査を実施した4遺跡は、未報告であり、今後、整理調査および分析を行うことにより、遺跡の性格等がより解明されていくことを期待したい。

【主要参考文献】

- 気仙沼市教育委員会（2016）『橋館跡』気仙沼市教育委員会
- 紫桃正隆（1973）『史料 仙台領内古城館・第二巻』宝文堂
- 戸沢充則 編（1994）『縄文時代研究事典』東京堂出版
- 宮城県教育委員会ほか（1986）『田柄貝塚Ⅰ（遺構・土器編）』宮城県教育委員会
- 本吉町教育委員会（1999）『宮城県本吉町平貝遺跡 平貝窯跡』本吉町教育委員会

報告書抄録

ふりがな	けせんぬましないはくつちょうさほうこくしよ							
書名	気仙沼市内発掘調査報告書							
副書名	国庫補助対象事業に伴う発掘調査（平成24・25年度）							
巻次	1							
シリーズ名	気仙沼市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第9集							
編著者名	石川 郁 鈴木貴夫							
編集機関	気仙沼市教育委員会							
所在地	〒988-8502 宮城県気仙沼市魚市場前1番1号 TEL 0226-22-3442							
発行年月日	2017年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
高谷遺跡 (第2次調査)	宮城県気仙沼市 松崎高谷	04256	59109	38°35'53"	141°34'41"	20120802 ～ 20120803	260.0	試掘・確認調査
平貝遺跡 (第1次調査)	宮城県気仙沼市本 吉町平貝	04256	62044	38°45'45"	141°30'18"	20120806 ～ 20120821	180.4	試掘・確認調査
津谷館跡 (第1次調査)	宮城県気仙沼市本 吉町津谷館岡	04256	62004	38°47'39"	141°30'19"	20120918 ～ 20120920	170.0	試掘・確認調査
田柄貝塚 (第4次調査)	宮城県気仙沼市若 崎	04256	59013	38°54'10"	141°32'56"	20121212 ～ 20121214	238.0	試掘・確認調査
圃の沢遺跡 (第1次調査)	宮城県気仙沼市本 吉町圃の沢	04256	62051	38°46'45"	141°29'57"	20130408 ～ 20130410	160.0	試掘・確認調査 記録保存調査
洞館跡 (第1次調査)	宮城県気仙沼市本 吉町洞沢	04256	62035	38°49'34"	141°33'53"	20140213	70.0	試掘・確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
高谷遺跡 (第2次調査)	散布地	縄文時代(前期)		遺物包含層		縄文土器		遺物包含層から縄文土器が出土。本調査実施。
平貝遺跡 (第1次調査)	集落	縄文時代(中期・後期)		小穴G1、土坑1		縄文土器、土製品、石器		小穴が多数検出。本調査実施。
津谷館跡 (第1次調査)	城館跡	中世		小穴153、溝状遺構4、土坑1、整地層1		なし		館跡主郭部の調査。小穴が多数検出。本調査実施。
田柄貝塚 (第4次調査)	貝塚	縄文時代(晩期)～弥生時代(初頭)		遺物包含層		縄文土器、弥生土器、石器		遺物包含層から縄文時代晩期から弥生時代初頭の土器が多数に出土。
圃の沢遺跡 (第1次調査)	散布地	縄文時代、奈良・平安時代		溝状遺構1		縄文土器、土師器、須恵器、石器		溝状遺構から土師器・須恵器が出土。本調査実施。
洞館跡 (第1次調査)	原敷跡 散布地	縄文時代、中世		土坑1		縄文土器		縄文時代の土坑検出。
要約	平成24・25年度の国庫補助金を得て実施して行った発掘調査のうち、遺構・遺物が検出された6遺跡を所収した。高谷遺跡は、量的には多くないが、遺物包含層が検出され、縄文時代前期の土器片が検出された。平貝遺跡は、小穴が多数検出され、縄文時代後期を主体とした土器片等が検出された。津谷館跡は、館跡主郭部の調査である。確認調査で遺構の掘削を行わなかったため、遺物は検出されなかったが、小穴が多数検出された。田柄貝塚は、遺物包含層から縄文時代晩期から弥生時代初頭を主体とした土器が検出された。圃の沢遺跡は、溝状遺構が1条検出され、縄文時代、奈良・平安時代の土器が検出された。洞館跡からは土坑1基及び縄文土器片が少量検出されたのみであった。6遺跡のうち、高谷遺跡、平貝遺跡、津谷館跡で原因为費用負担で本調査を実施した。							

—気仙沼市文化財調査報告書一覧—

- 『本吉町の文化財』（1978年5月）
宮城県本吉郡本吉町文化財調査報告書第2集
『前浜貝塚』（1979年7月）宮城県本吉町教育委員会
- 本吉町文化財調査報告書第3集
『宮城県本吉町 平貝遺跡 平貝窯跡』（1999年3月）本吉町教育委員会
- 宮城県気仙沼市文化財調査報告書
『塚沢横穴古墳群』（昭和51年3月）気仙沼市教育委員会
- 宮城県気仙沼市文化財調査報告書第2集
『南最知遺跡発掘調査概報』（昭和55年3月）宮城県気仙沼市教育委員会
- 宮城県気仙沼市文化財調査報告書第3集
『塚沢横穴古墳群 B地区発掘調査報告書』（昭和56年）気仙沼市教育委員会
- 宮城県気仙沼市文化財調査報告書第4集
『内の脇2号貝塚発掘調査概報』（昭和57年）気仙沼市教育委員会
- 宮城県気仙沼市文化財調査報告書第5集
『一般県道大島線改良工事に伴う駒形遺跡発掘調査報告』（昭和61年）気仙沼市教育委員会
- 宮城県気仙沼市文化財調査報告書第6集
『上八瀬地区化石調査報告書』（昭和62年9月）気仙沼市教育委員会
- 宮城県気仙沼市文化財調査報告書第7集
『気仙沼市の洞穴 気仙沼市洞穴地域調査報告書』（1995年3月）気仙沼市教育委員会ほか
- 気仙沼市文化財調査報告書第8集
『博物館 防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業（大谷地区）に伴う発掘調査報告書』（2016年）気仙沼市教育委員会
- 気仙沼市文化財調査報告書第9集
『気仙沼市内発掘調査報告書1 一国庫補助対象事業に伴う発掘調査—（平成24・25年度）』（2017年）気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第9集

気仙沼市内発掘調査報告書1

—国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書—
（平成24・25年度）

発行日 2017年3月28日
編集・発行 宮城県気仙沼市魚市場前1-1
気仙沼市教育委員会
印刷 宮城県気仙沼市本吉町猪の鼻169-7
小宮山印刷工業株式会社